



## 2024年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年8月9日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2024年3月期 第1四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。
- 私から2024年3月期 第1四半期の連結決算概況および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

## 免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

# ハイライト

## 第1四半期実績

✓ 上海ロックダウンなどから回復した中国や、全分野で成長したアジア・オセアニアが牽引。製品別では、EVIS X1などが貢献し、売上高は伸長。成長投資や事業運営基盤強化、効率性向上のためのプロジェクト費用などが先行し、減益

- 売上高： 連結で+8%（為替影響調整後+4%）成長。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高内視鏡・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成
- 調整後営業利益： 将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加に加え、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用などが先行し、減益
- 当期利益\*： 科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,406億円、EPSは192円
- その他： FDAと建設的な対話を行いつつ、Warning Letter指摘事項に対する是正活動は順調に進捗

## 通期業績見通し

✓ 第1四半期実績はスローなスタートとなるも、計画達成に向け対応策を講じているため、通期見通しは据え置き

- 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 調整後営業利益： 費用管理を徹底し、前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円、調整後営業利益率は経営戦略で掲げた約20%を見込む
- 当期利益\*： 過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通し

\*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド3)

- 2024年3月期 第1四半期決算における主なポイントです。
- 売上高は連結で8%の増加です。上海ロックダウンなどから回復した中国や、全分野で成長したアジア・オセアニアが牽引しました。製品別では、「EVIS X1」や「VISERA ELITE III」などが貢献しています。内視鏡事業・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成し、医療分野は第1四半期として過去最高の売上高となりました。
- 一方で、前期その他収益に計上した、東京都内の土地の売却益約164億円がなくなったことに加え、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加に加え、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用などが先行したことにより、減益となりました。
- 米国食品医薬品局（FDA）関連対応費用は、販管費で数億円、その他費用で約50億円発生しました。主な内容は、コンプライアンス対応や医療機器報告（MDR）、プロセスおよび設計の検証となり、適用されるすべての品質法規制を遵守し、品質保証機能を強化することを目的としています。これまで、FDAとは建設的な対話を行っており、Warning Letter指摘事項に対する是正活動は順調に進捗しています。
- その他損益を除外した調整後営業利益は▲5%の減益、調整後営業利益率は13.6%です。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益を当期第1四半期に計上し、過去最高の2,406億円、EPSは192円となりました。
- 続いて2024年3月期の通期業績見通しです。
- 第1四半期までの実績はスローなスタートとなりましたが、計画達成に向け対応策を講じているため、5月にお示した通期業績見通しから据え置きとしています。
- 売上高は、前期比4%増の9,140億円、調整後営業利益は前期比3%増の1,820億円を見込んでいます。調整後営業利益率は前期水準の約20%を維持する見通しです。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通しです。
- 第2四半期以降も事業環境の不透明さは一定程度続く見込みですが、これらリスクを引き続き注視しながら、事業運営をしてまいります。また、QARAをはじめとする事業運営基盤強化や研究開発、生産性向上のための取り組みに対する資源配分を行いながら、適正な費用のコントロールにも努めてまいります。



01

## 2024年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2024年3月期 第1四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

## 2024年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+8%（為替影響調整後+4%）成長。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成
- 2 調整後営業利益：将来の成長や事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加に加え、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用などが先行し、減益
- 3 当期利益\*：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,406億円、EPSは192円

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後
** 継続事業	売上高	1,923	2,077	+8%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	1,257 (65.4%)	1,372 (66.1%)	+9%	+2%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	960 (49.9%)	1,088 (52.4%)	+13%	+9%
	その他の収益および費用など	148	▲60	-	-
	営業利益 (営業利益率)	445 (23.2%)	225 (10.8%)	▲50%	▲60%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	297 (15.5%)	283 (13.6%)	▲5%	▲21%
	税引前利益 (税引前利益率)	420 (21.9%)	197 (9.5%)	▲53%	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	279 (14.5%)	135 (6.5%)	▲52%	
	非継続事業からの当期利益	▲30	2,271	+2,301億円	
	当期利益	249	2,406	+865%	
継続事業	親会社の所有者に帰属する当期利益	249	2,406	+868%	
	EPS	20円	192円		

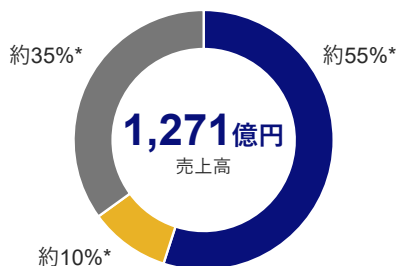
\*親会社の所有者に帰属する当期利益。  
2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS  
\*\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
\*\*\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド5)

- まず、連結業績の概況です。
- 連結売上高は2,077億円です。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高となり、連結で8%の成長となりました。内視鏡事業・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成しました。
- 売上総利益は1,372億円、売上総利益率は0.7ポイントの改善です。半導体のスポットマーケットでの調達が減少したことや円安による為替影響を主要因として、改善しました。
- 販管費は1,088億円、販管費比率は2.4ポイントの悪化です。主な要因は、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加や、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加です。
- 調整後営業利益は283億円、前期比で15億円、5%減少しました。調整後営業利益率は1.9ポイント悪化し、13.6%でした。
- その他の損益などは▲60億円です。前期において東京都内の土地の売却益約164億円を計上した一方で、今期においてFDA関連対応費用を約50億円計上したことが前期比減少の主な要因です。
- 継続事業の当期利益は135億円、継続事業のEPSは11円となりました。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を当期第1四半期に計上し、継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は2,406億円、EPSは192円となりました。



## 2024年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
		1Q	1Q	1Q
売上高		1,169	1,271	1,271
営業利益		248	222	222
その他の損益**		▲12	▲34	▲34
<b>調整後営業利益</b>		<b>260</b>	<b>256</b>	<b>256</b>
営業利益率 (為替影響調整後)		21.3%	17.4% (15.4%)	
<b>調整後営業利益率 (為替影響調整後)</b>		<b>22.3%</b>	<b>20.1% (18.1%)</b>	

FY2024 vs FY2023 (4-6月)  
売上高成長率

為替影響  
調整後

円ベース  
為替込み

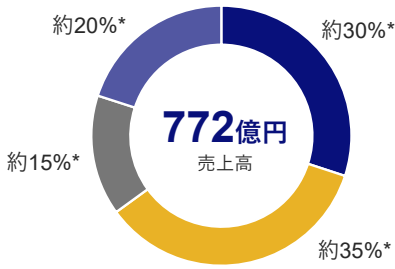
■ 消化器内視鏡	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国の成長が顕著。アジア・オセアニアや日本において、「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が好調に推移。一方、前年に英国などで大型案件による押し上げ効果のあった欧州、「EVIS X1」発売前の買い控えが見られた北米は減収</li> </ul>	3%
■ 外科内視鏡	19%	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の販売が好調に推移し、全地域でプラス成長。特に「VISERA ELITE III」の拡販が奏功しているアジア・オセアニアが増収に寄与</li> </ul>	24%
■ 医療サービス	8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長</li> </ul>	13%
合計	5%		9%

\*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / \*\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド6)

- 各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は1,271億円、円ベースで9%、為替影響調整後で5%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は256億円、調整後営業利益率は20.1%でした。
- 売上利益は増加したものの、人件費の増加などにより、調整後営業利益は減益となりました。その他の費用では、今期FDA関連対応費用として約32億円を計上しています。
- 各分野の第1四半期（4-6月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡では、前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国が回復し、成長しました。アジア・オセアニアや日本においては、「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が好調に推移しています。一方で、前年に英国などで大型案件による押し上げ効果のあった欧州、「EVIS X1」発売前の買い控えが見られた北米は減収となりました。
- なお、第1四半期における「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡のサブセグメントの中で約15%となっています。また、導入済みの地域における「EVIS X1」の売上高は、前年同期比で2桁成長を維持しており、市場への浸透が進んでいます。
- 外科内視鏡では、2022年9月以降欧州、アジア一部地域および日本で発売している新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」が好調に推移し、全地域でプラス成長となりました。特に「VISERA ELITE III」の拡販が奏功しているアジア・オセアニアが増収に寄与しています。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加などもあり、中国をはじめ全地域でプラス成長となりました。

# 2024年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



	FY2023	FY2024
(単位: 億円)	1Q	1Q
売上高	724	772
営業利益	134	97
その他の損益**	▲2	▲19
<b>調整後営業利益</b>	<b>136</b>	<b>116</b>
営業利益率 (為替影響調整後)	18.5%	12.5% (11.4%)
<b>調整後営業利益率 (為替影響調整後)</b>	<b>18.8%</b>	<b>15.0% (13.9%)</b>

FY2024 vs FY2023 (4-6月)  
売上高成長率

為替影響  
調整後

円ベース  
為替込み

■ 消化器科 (処置具)	5%	■ 北米を中心にプラス成長。ESD・EMR、サンプリング (生検鉗子等)、ERCP用の製品群の売上が拡大	9%
■ 泌尿器科	2%	■ 受注が好調なアジア・オセアニアが成長を牽引。主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生するも、BPHで主に使用される切除用電極や尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」は引き続き販売が拡大	8%
■ 呼吸器科	▲2%	■ 欧米における一部製品の出荷停止や遅延を受け、為替影響調整後では減収。前年、COVID関連の補助金効果が見られた日本も低調に推移	2%
■ その他の治療領域	1%	■ 前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国の成長が顕著。特に耳鼻咽喉用スコープの売上が寄与	5%
合計	2%		7%

\*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / \*\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / \*\*\*注: 医薬品医療機器等法未承認品。一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

## (スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は772億円、円ベースで7%、為替影響調整後で2%のプラス成長でした。調整後営業利益は116億円、調整後営業利益率は15.0%でした。
- 増収により、売上利益は増加したものの、各種プロジェクト関連費用の増加などにより、調整後営業利益は減益となりました。その他の費用では、今期FDA関連対応費用として約18億円を計上しています。
- 各分野の第1四半期 (4-6月) の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、北米を中心にプラス成長となりました。病変の切除に使用されるESD (Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術)・EMR (Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術) 用、スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子などのサンプリング、膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP (Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術) 用の製品群売上が拡大しています。
- 泌尿器科では、受注が好調なアジア・オセアニアが成長を牽引しました。主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生しましたが、BPH (Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症) で主に使用される切除用電極や尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」は引き続き販売が拡大しました。
- 呼吸器科では、欧米における一部製品の出荷停止や遅延を受け、為替影響調整後で減収となりました。前年、COVID関連の補助金効果が見られた日本も低調に推移しています。
- その他の治療領域では、前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国が回復し、成長しました。特に耳鼻咽喉用スコープの売上が寄与しています。

## 財政状態計算書

- ☑ 主にエビデント譲渡による現金・利益剰余金の増加により、バランスシートは為替影響（約743億円）を除いて実質約1,057億円増加
- ☑ エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動

(単位：億円)	2023年3月末	2023年6月末	増減額		2023年3月末	2023年6月末	増減額
流動資産	7,264	9,648	+2,385	流動負債	4,619	4,164	▲455
棚卸資産	1,630	1,775	+145	社債および借入金	500	999	+499
売却目的で保有する資産	1,696	6	▲1,691	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	433	0	▲432
非流動資産	7,820	7,234	▲585	非流動負債	4,052	3,650	▲402
有形固定資産	2,387	2,535	+148	社債および借入金	2,901	2,460	▲440
無形資産	1,152	1,202	+51	資本	6,412	9,069	+2,657
のれん	1,825	1,979	+154	自己資本比率	42.4%	53.7%	+11.3pt
<b>資産 合計</b>	<b>15,083</b>	<b>16,883</b>	<b>+1,800</b>	<b>負債および資本合計</b>	<b>15,083</b>	<b>16,883</b>	<b>+1,800</b>

(スライド8)

- 2023年6月末の財政状態です。
- バランスシートは1,800億円増加していますが、そのうち約743億円が為替の影響となり、実質約1,057億円の増加となります。
- エビデント譲渡による現金・利益剰余金の増加が主な要因です。
- エビデントの株式譲渡完了に伴い、「売却目的で保有する資産」は1,691億円減少し、「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」は432億円減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で11.3ポイント増加し、53.7%となりました。



# 連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは103億円のマイナス
- ☑ 財務CF： 配当金支払を主要因に、259億円のマイナス

## 第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		FY2023	FY2024	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	420	197	▲223
		営業キャッシュフロー	▲269	▲531	▲263
		投資キャッシュフロー	52	4,270	+4,218
		フリーキャッシュフロー	▲217	3,739	+3,955
		調整後フリーキャッシュフロー	▲202	▲103	+100
		財務キャッシュフロー	▲217	▲259	▲41
		現金および現金同等物期末残高	2,864	5,587	+2,723

### 2023年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業再編に伴う税金支出	▲178億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	+191億円
投資CF：エビデントの事業開始に伴う投資・一時的な資金負担	▲27億円

### 2024年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,888億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

(スライド9)

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、531億円のマイナスとなりました。エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に減少となりました。
- 投資キャッシュフローは、4,270億円のプラスとなりました。エビデントの株式譲渡対価などの受領や、エビデントに対する貸付金の回収などにより増加しています。
- フリーキャッシュフローは、3,739億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは103億円のマイナスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、259億円のマイナスとなりました。配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2023年6月末の現金および現金同等物残は2,723億円増の5,587億円となりました。



02

## 2024年3月期 通期業績見通し

(スライド10)

- 次に、2024年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

## 通期業績見通し ①連結業績

期初の見通しを据え置き

- 1 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む  
 2 調整後営業利益： 費用管理を徹底し、前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円、調整後営業利益率は経営戦略で掲げた約20%を見込む  
 3 当期利益\*： 譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通し

		(単位：億円)		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
** 継続事業	売上高		8,819	1	9,140	+321	+4%	+5%
	売上総利益 (売上総利益率)		5,968 (67.7%)		6,270 (68.6%)	+302	+5%	+7%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)		4,205 (47.7%)		4,460 (48.8%)	+255	+6%	+7%
	その他の収益および費用など		103		▲180	-	-	-
	営業利益 (営業利益率)		1,866 (21.2%)		1,630 (17.8%)	▲236	▲13%	▲9%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)		1,768 (20.0%)	2	1,820 (19.9%)	+52	+3%	+6%
	税引前利益 (税引前利益率)		1,823 (20.7%)		1,590 (17.4%)			
	継続事業からの当期利益		1,380 (15.7%)		1,150 (12.6%)			
	非継続事業からの当期利益		56		2,210			
	当期利益		1,436		3,360			
継続事業	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)		1,434 (16.3%)	3	3,360 (36.8%)			
	EPS		113円		273円			

\*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS  
 \*\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
 \*\*\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期配当  
 年間配当18円を予定

(スライド11)

- 2024年3月期の通期業績見通しです。
- 第1四半期の実績はスローなスタートとなりましたが、計画達成に向け対応策を講じているため、残り3四半期についても5月開示の計画を変更することなく、想定の為替レートも含めて前回から据え置きとしています。
- 売上高は、前期比4%増の9,140億円を見込んでいます。
- 調整後営業利益は前期比3%増の1,820億円、調整後営業利益率は前期水準の約20%を維持する計画です。
- 費用の管理を徹底する一方で、FDAからの指摘事項への対応に加え、患者さんの安全に資する包括的な施策に係る投資を最優先で行うとともに、研究開発や生産性向上のための取り組みも強化してまいります。
- 当期利益は、エビデントの譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通しです。また、継続事業の当期利益は1,150億円、継続事業のEPSは93円を見込んでいます。
- 2024年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、18円を予定しております。

## 通期業績見通し ②セグメント別業績

期初の見通しを据え置き

- 1** 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み。米国における「EVIS X1」の導入は2024年3月期中頃を予定  
**2** 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し*	増減	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	5,518	<b>1</b> 5,720	+202	+4%	+5%
	営業利益	1,528	1,580	+52	+3%	+6%
治療機器	売上高	3,182	<b>1</b> 3,290	+108	+3%	+5%
	営業利益	637	560	▲77	▲12%	▲8%
その他	売上高	119	130	+11	+9%	+8%
	営業損益	▲9	10	+19	+19億円	+19億円
全社・消去	営業損益	▲289	▲520	▲231	▲231億円	▲232億円
連結合計	売上高	8,819	9,140	+321	+4%	+5%
	営業利益	1,866	1,630	▲236	▲13%	▲9%
(参考) 非継続事業	売上高	1,354	0	▲1,354	-	-
	営業利益	70	<b>2</b> 3,470	+3,400	-	-

\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド12)

- セグメント別の業績見通しです。
- こちらも5月にお示した見通しを据え置いています。
- 内視鏡事業と治療機器事業ともに引き続き成長し、両事業を合わせた医療分野の売上高は過去最高となる見通しです。
- 内視鏡事業では、日本、欧州、アジアでの「EVIS X1」、「VISERA ELITE III」の拡販効果に期待をしています。なお、「EVIS X1」の米国での販売開始は、引き続き2024年3月期中頃を予定しています。
- 治療機器事業では、症例数の回復に加え、既存製品による売上成長や新製品の継続的な導入による拡販が見込まれる消化器科、切除用電極や尿路結石用破碎装置が引き続き好調に推移する見通しの泌尿器科を中心に成長を見込んでおります。
- 全社消去については、2023年3月期において計上した東京都内の土地の売却益約164億円などがなくなることに加え、IT関連などのコーポレート基盤強化のための費用などが増加する見通しです。
- 非継続事業は、譲渡益を計上し、大幅な増益を見込んでいます。

## Management View

- ☑ FDAと建設的な対話を行いつつ、Warning Letterに対する是正活動は順調に進捗
- ☑ 全社横断的な品質変革プログラムを始動
- ☑ 第1四半期の業績はスローなスタート  
さまざまなリスクはあるものの、  
計画達成に向け対応策を講じている  
ため、通期見通しは据え置き



(スライド13)

- 最後に、新たな執行体制でスタートしたこの4月からの振り返りについてお話ししたいと思います。
- 私たちは5月に発表した経営戦略を作成する際、FDAのWarning Letterに対する是正活動が当社の成長性に短期的な影響を与える可能性を考慮し、売上高の年平均成長率を5%としました。一部ではこの目標水準は保守的だと評価されてきましたが、改善活動を通して見えてきた課題や、製品の出荷停止やリコールなどの影響などを考慮すると、当時の私たちの判断が適切であったと考えています。改善に向けた取り組みは始まったばかりですが、FDAと緊密かつ建設的な対話を行っており、私たちの活動は順調に進んでいます。
- そして、この取り組みと並行して、私たちは真のグローバル・メドテックカンパニーとなるべく、組織構造、業務プロセス、能力、企業文化の変革に向けたプログラムを始動しました。この新たな品質変革プログラムを通じて、医療従事者、患者さん、そして全てのステークホルダーの価値創造に貢献してまいります。
- また、長期的且つ持続可能な成長を実現するための戦略的な価値の源泉である「事業拡大とグローバル展開」、「戦略的M&A」、「ケア・パスウェイの強化」、「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」という4つのキードライバーも順調に進んでいます。
- この第1四半期の実績は、一部製品の出荷停止などの影響やプロジェクト関係の費用が先行するなど、社内計画に対してスローなスタートとなりました。しかしながら、計画達成に向け対応策を講じていることに加え、第1四半期で見られたようなリスクも踏まえて為替前提は据え置いており、通期の業績見通しは期初から変更ありません。
- 私たちはこの機会を真のグローバル・メドテックカンパニーへと変革するチャンスと捉えています。FDAのWarning Letterに関する是正活動の完遂、患者さんの安全に向けた品質変革プログラムの実行、そして、この三年間の財務ガイダンスの達成を通して、オリンパスは世界をリードするメドテックカンパニーへと変革してまいります。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。



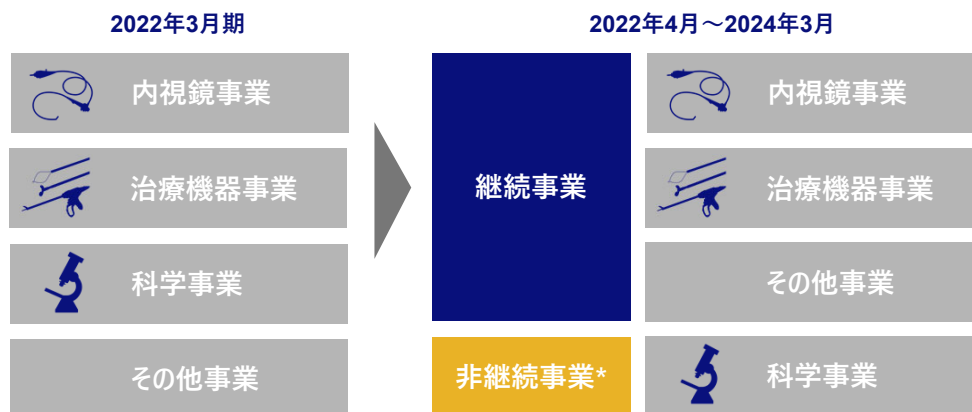
**OLYMPUS**

## 参考資料

---

## 開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、  
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

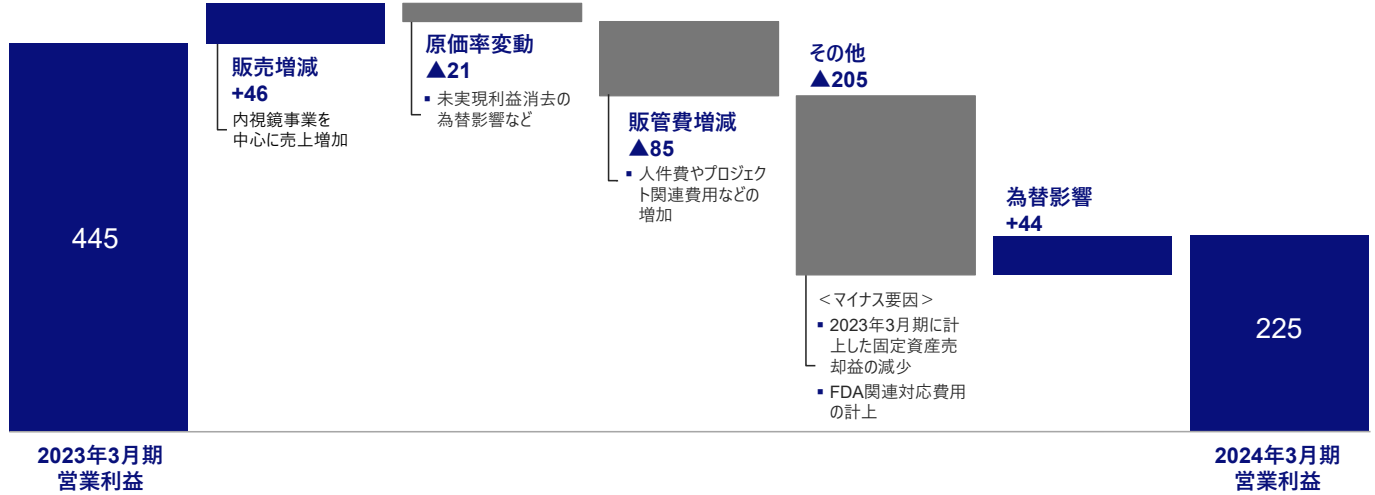


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

\*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

# 2024年3月期 第1四半期実績 連結営業利益増減要因

第1四半期実績（4-6月）



(単位：億円) \*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

## 2024年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		2023年3月期	2024年3月期	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,169	1,271	+9%	+5%
	営業利益	248	222	▲11%	▲24%
治療機器	売上高	724	772	+7%	+2%
	営業利益	134	97	▲28%	▲37%
その他	売上高	30	34	+13%	+9%
	営業損益	▲3	▲1	+2億円	+2億円
全社・消去	営業損益	66	▲92	▲159億円	▲158億円
連結合計	売上高	1,923	2,077	+8%	+4%
	営業利益	445	225	▲50%	▲60%
(参考) 非継続事業	売上高	218	0	-	-
	営業損益	▲37	3,476	-	-



# 連結キャッシュフロー 増減要因



# プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年8月9日時点)



## 2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

### 現在の主力製品

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

### 直近の新製品 / 発売予定の製品

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

### 中長期のパイプライン

#### 消化器内視鏡

- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国)

# 5%

2024年3月期  
売上高成長率<sup>1</sup>

1 為替影響調整後の成長率

# プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年8月9日時点)



## 2024年3月期の治療機器事業における重点施策

### 消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨時的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

### 泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

### 呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力し、欧州・アジア地域におけるSPiN Navigationの市場拡大を推進
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

# 5%

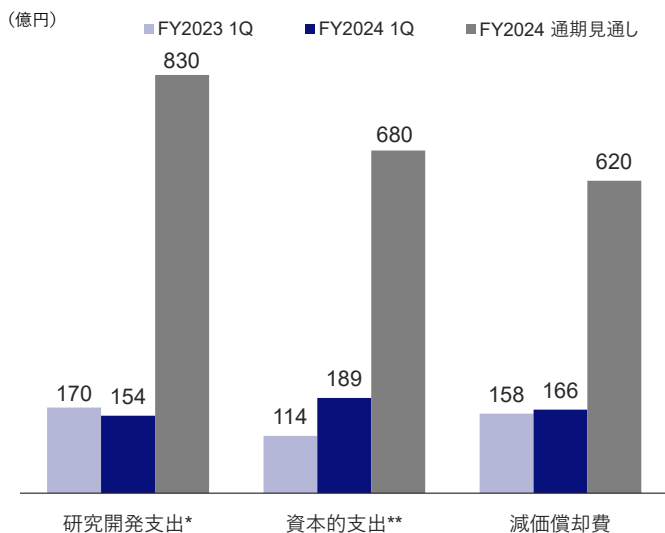
2024年3月期  
売上高成長率<sup>1</sup>

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
<b>消化器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Visiglide</li> <li>ESD Knife</li> <li>EZ Clip / QuickClip Pro</li> <li>EndoJaw</li> </ul> <b>泌尿器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>レゼクト電極</li> <li>ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)</li> </ul> <b>呼吸器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>気管支鏡、超音波気管支鏡</li> <li>ViziShot</li> <li>スパイレーションバルブシステム</li> <li>EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)</li> </ul>	<b>消化器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1製品 (米国)</li> <li>6製品 (欧州)</li> <li>5製品 (日本)</li> <li>1製品 (中国)</li> </ul> <b>泌尿器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)</li> <li>シングルユース尿管鏡 (米国、日本)</li> <li>iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)</li> <li>レゼクト電極 (中国)</li> <li>硬性尿管鏡 (中国)</li> </ul> <b>呼吸器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>電磁ナビゲーションシステム (米国)</li> <li>シングルユース気管支鏡 (米国)</li> <li>新超音波気管支鏡 (米国、中国)</li> <li>EVIS X1 気管支鏡 (米国)</li> <li>超音波プロセッサー (欧州、日本、アジア・オセアニア)</li> </ul>	<b>消化器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>シングルユース胆道鏡</li> </ul> <b>泌尿器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>膀胱鏡</li> <li>カメラヘッド</li> </ul> <b>呼吸器科</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>電磁ナビゲーションシステム (欧州)</li> <li>細径超音波気管支鏡</li> <li>EVIS X1 気管支鏡 (中国)</li> </ul>

\*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております  
1 為替影響調整後の成長率

# 投資など

## 第1四半期実績（4-6月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2023	FY2024
研究開発支出* (a)	170	154
開発費資産化 (b)	17	27
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	153	127

(単位：億円)	FY2023	FY2024
償却費	16	21
	2023年3月末	2023年6月末
開発資産残高	560	599

\*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています  
 \*\*資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2023 1Q：26億円、FY2024 1Q：43億円、FY2024 見通し：90億円)

## 為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1か月間の平均値を原則としている

### 為替

(単位：円)	FY2023 1Q	FY2024 1Q	FY2024 見通し
円/USドル	129.57	137.37	132
円/Euro	138.12	149.47	144
円/CNY	19.58	19.56	19

### 為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	7
1ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	58	35

\*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。